

# 音楽

## 「思い」や「意図」を確かにしながら、豊かに表現する生徒の育成

何のために音楽を学ぶのか。どのように音楽科の学びを深めていけばよいのか。学習指導要領における音楽科改善の基本方針には、「思いや意図をもって表現する力を育成すること」、「音楽と生活とのかかわりに関心をもつこと」など、その方向性が明示されています。生徒が「思い」や「意図」をより確かなものにしながら、豊かに表現していく学習過程が、音楽科における「深い学びにいたる授業」の姿であると考え、実践研究を推進しています。



県中教研 音楽部 全県部長  
十日町市立中里中学校

校長 上村 みほ

### 「思い」や「意図」を高めながら、豊かな表現を目指す

「思いや意図をもって表現する力」の育成については、学習指導要領における音楽科改善の基本方針として重視されており、本研究会の音楽科重点目標にも位置付けられています。「思いや意図をもって表現する」とは、生徒が自分なりに表現したい音楽のイメージをもち、描いたイメージに合うよう、試行錯誤しながら工夫して表現すること、と捉えられます。

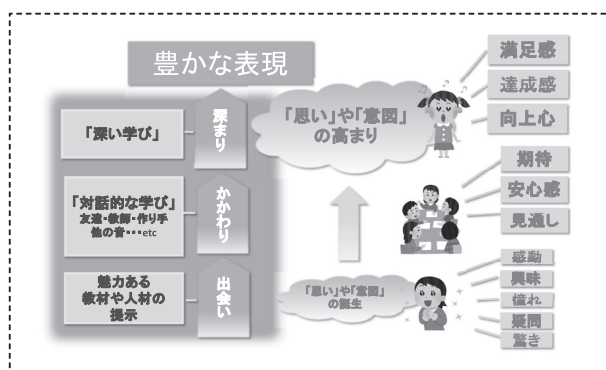
まず重要なのは、生徒と音楽(教材)との「出会い」です。この出会いを教師がドラマティックに演出することにより、生徒は興味、感動、驚き、憧れなどを抱きます。この時、既に生徒の中には「思い」や「意図」が生まれています。

ここで生まれた「思い」や「意図」を高める大切な手立ての一つが、「かかわり」を仕組むことで「対話的な学び」を生み出すことです。対話の相手は、友達や教師、音楽の作

り手、他の音楽など様々です。このプロセスを経て、生徒の中では期待(おもしろくなってきた)、安心感(だんだんわかってきた)、見通し(こんな風に表現してみよう)などが膨らみ、「思い」や「意図」はさらに高まります。

そして、題材の終末に教師が企図した発表や表現の場面などにより、生徒は満足感や達成感、さらなる向上心を抱き、次の題材へと「思い」をつなぎます。

こうした一連の学習過程に、音楽科の「深い学び」が内在すると考えています。



## 「思い」や「意図」を、より確かなものにする

実践を重ねる中で、私たちは、生徒が「思い」や「意図」を確かなものにしていくことで、表現がより豊かになり、学びが一層深まっていくのではないかと考えるようになりました。そこで、「思い」や「意図」の明確化という視点から、以下の手立てにより、さらに実践を深めることにしました。

### 【手立て1】…生徒に「他者意識」をもたせる題材構成の工夫

十日町市中魚沼郡中教研(会場校;十日町市立十日町中学校 以下、十日町中)の実践では、「校内合唱コンクール」や「郡市音楽交歓会」を題材の終末に位置付け、「思い」を伝える相手を意識した共感性のある表現を目指しました。

佐渡市中教研(会場校;佐渡市立佐和田中学校 以下、佐和田中)の実践では、「ご当地CMソングをつくろう」という題材を開発し、

音楽で佐渡の魅力を観光客に発信することに、挑戦しました。

このように、目的と対象を明確にすることで、生徒が一層主体的に表現活動に取り組み、学びを深める姿を期待しました。

### 【手立て2】…表現のイメージの明確化

十日町中では、表現する楽曲のイメージをイラストや画像で可視化することで、言葉にできない思いを表現できるよう工夫しました。

佐和田中では、ICTを効果的に活用し、つくった音楽が表現したいイメージと合っているか客観的に確認することを繰り返しました。

このように、音楽のイメージを明確化、共有化することで、生徒の「思い」や「意図」がより確かなものになり、生き生きと表現する姿が見られています。

## 知覚と感受の往還を自然に生み出す学習過程を工夫する

学習指導要領の〔共通事項〕には、「…音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じること」と記載されています。この「知覚と感受の往還」は音楽科の学習の本質的な部分と言えます。

十日町中では、毎回の授業の導入に「帯活動」を取り入れ、音や音楽を「聴く」学習を重点的に積み重ねてきました。この取組により、生徒が音楽の基礎・基本を身に付けていくとともに、音楽を形づくっている要素を意識することが、習慣化することを目指しました。音や音楽に静かに耳を傾ける学習は、「正確な音程で歌唱する」など技能の向上にも結

び付いています。

佐和田中では、既習事項を学びに効果的に生かすことができるよう題材を工夫し、旋律、リズムなど音楽を形づくっている要素と表したい音楽のイメージとを結びつけながら、表現を深めてきました。

このように学習過程を工夫する取組により、生徒の中に知覚と感受の往還が自然に身に付いていき、「音楽的な見方・考え方」が育まれていきます。生徒は、音楽を形づくっている要素を支えとしながら、一層豊かな表現をつくり上げ、「深い学び」に迫っていくことができると考えています。

<引用・参考資料> 新潟県中越音楽研究会(2023)「研究総論」(2023年6月現在)

## 音楽 重点目標

生涯にわたって音楽に親しむ生徒を育てる。

- 音楽のよさを感じ、伝え、関わり合いながら学び、考える授業を展開する。
- 音楽を形づくっている要素を支えとして、思いや意図をもって表現する生徒を育てる。

# 音楽 <中越地区／十日町市中魚沼郡中教研>

## 「『思い』や『意図』をもって歌唱表現を工夫しよう」

混声三部合唱 あなたへ  
～旅立ちに寄せるメッセージ～

研究主題：思いや意図を歌唱表現につなぐ指導の工夫

開催日：10月13日（金）

会場校：十日町市立十日町中学校

公開：3学年

授業者：3年 本保 美帆子

指導者：魚沼市教育センター 指導主事 佐藤 孝子様



研究推進責任者  
十日町市立松代中学校

友野 敦子



教科・領域担当者  
十日町市立十日町中学校

本保 美帆子

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

楽曲に対して自分なりに表現したい音楽のイメージ（思いや意図）をもち、これまで授業で学習してきた知識や技能を生かして、楽曲にふさわしい歌唱表現を追求します。また、自分の考えを基に他者との対話を進めることで、「思い」や「意図」を深めます。そうして、音楽を形づくっている要素を意識した歌唱表現を楽しむ姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 音楽的な表現に必要な知識と技能の定着を図る

明確な意味付けのあるイメージや表現をするためには、基本的な音楽要素を理解する必要があります。そのため、毎時間授業の導入に聴音と楽典の小テスト、ミニ鑑賞を行い、基盤となる能力を定着させていきます。

特に、音楽の教育活動において重要な「聴く」学習から授業を開始することは、音に対する意識を高めるとともに、正確な音程で歌唱することにつながれると考えます。

#### ポイント2

#### イメージを可視化して他者と共有する

楽曲に対するイメージを、イラストや画像で表現することで、言葉だけでは伝えきれない思いを表現できるようにします。それは他者との共有を深め、方向性を統一することにもつながります。

#### ポイント3

#### 思いを届ける相手、聴く人を意識した演奏を行う

演奏者が共有したイメージや思いを一方向的に合唱表現するのではなく、伝える相手を意識した、共感性のある演奏を行えるようにします。

## 単元(題材)の様子

①楽曲の背景や歌詞の内容と構造を分析し、理解することで、根拠をもったイメージの土台をつくります。

ゲストティーチャー(研究推進委員メンバー)が合唱活動に参加して、音楽的なアドバイスをします。

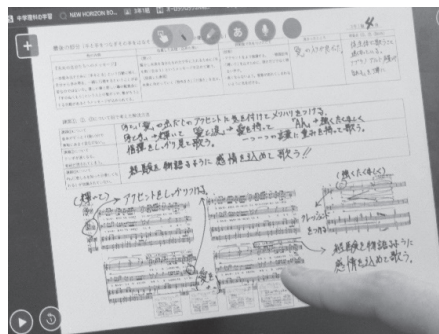
### ポイント1



②ICTを活用して、楽譜から各自が選んだ部分の楽曲のイメージ画像を作成します。このイメージ画像と楽譜、歌詞を基に、どのように歌うと思いが伝わる合唱になるかを話し合っていきます。(個人→グループ→クラス→学年)

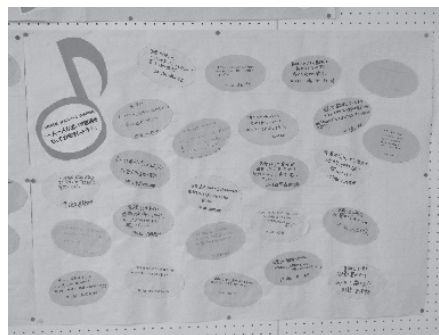
学年で共有した楽曲の1番と2番の合唱表現を生かして、終結部にふさわしい表現の追求を行います。

### ポイント2



③終結部における自分たちのイメージした画像を見ながら演奏し、聴いている人に思いを届けるために必要な課題を明確にしていきます。その際、音楽を形づくっている要素を意識し、読譜力を生かした根拠のある意見交換を行い、課題を解決するために必要な演奏技術をはっきりとさせます。

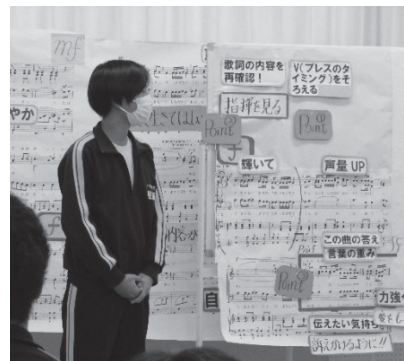
### ポイント3



## 研究会

④本時では、共有した演奏技術を生かした歌唱表現に取り組みます。この活動をとおして、伝えたい思いや意図を表現するためにはどのような技術が必要かを、より確かなものにすることができると考えています。

対話を深めながら思いを込めて合唱をつくり上げる楽しさや、喜びを感受できる授業を目指しています。



⑤この後行われる「校内合唱コンクール」、「郡市中学校音楽交歓会」において、イメージした内容、意図した思いを伝える演奏を行う予定です。この活動は、授業校だけでなく、郡市内の中学校も同じように取り組めます。そのため、音楽交歓会ではメッセージの交換をとおして、演奏する立場、聴く立場の両方を体験し、思いのやり取りができるようにしていきます。



# 音楽 <下越地区／佐渡市中教研>

## 「言葉のリズムや抑揚を生かして表現してみよう」

～ご当地CMソングをつくろう～

研究主題：音楽を形づくっている要素を支えとして、  
思いや意図をもって表現する生徒の育成

開催日：11月24日（金）

会場校：佐渡市立佐和田中学校

公開：2学年

授業者：2年 山本 美保子

指導者：新潟大学 名誉教授 伊野 義博 様  
佐渡市立両津中学校 校長 嶋見 靖之 様



研究推進責任者  
佐渡市立高千中学校  
岩崎 かおり



教科・領域担当者  
佐渡市立佐和田中学校  
山本 美保子

### ・こんな深い学びの姿を目指します・

生徒が表したいイメージをもち、音楽的な見方・考え方を働かせて創意工夫しながら創作活動に取り組む姿を目指します。興味関心を基に表現への思いをもたせ、音楽を形づくっている要素と表したい音楽のイメージとを結びつけながら、意図をもって表現を工夫することが「深い学び」に至るカギとなると考えました。

また、ICTを効果的に活用することで、主体的・協働的に音楽活動を楽しむ生徒の姿を目指します。

### ・深い学びにいたるポイント

#### ポイント1

#### 目的と対象を明確にした課題設定にする

生徒が自分とのかかわりを要件として捉えられるような課題とゴールを設定することで、主体的に取り組む姿が期待できます。

#### ポイント2

#### ICTの効果的な活用を促す

タブレットを用いて、生徒が創った旋律をすぐ音に変換して確かめることができるようにします。

#### ポイント3

#### 既習事項を学びに生かせるようにする

これまでに学習した音階や言葉の特徴、音のつながり方の特徴などについて、表したいイメージと関わらせて音や音楽で示したり、生徒同士が感想を伝え合ったりしながら活動します。言葉の抑揚とリズムの関わりや旋律の跳躍による感じ方の違いなどを、知覚と感受を結びつけて、条件に沿った作品が完成できるように進めます。

## 単元(題材)の様子

①まず、地域の方や企業からの依頼を受け、佐渡の特産品をPRすることに意欲を高めていきます。

次に、印象に残っているCMソングを挙げながら、CMソングの効果、良さについて意見交換します。

その後、既存のCMのイメージとそのCMソングのリズムや旋律の特徴を捉えていきます。

ポイント1



②自分がPRしたい佐渡の特産品や名所を一つ選び、その特徴やイメージを2語以上で表します。

例：おけさ柿→「甘い」「おいしい」

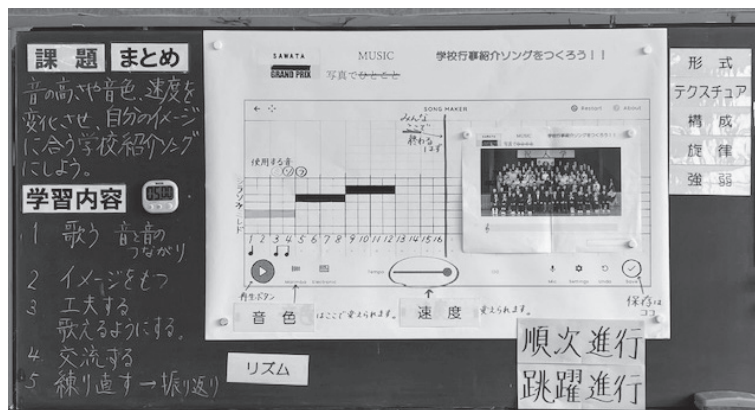
次に、表したいイメージを捉えます。例：「ゆったり」「なめらか」

リズムや旋律の特徴について、表したいイメージと関わらせて、わかったことや気付いたことをワークシートに記入します。

【リズム】	細かい	長い	弾む	ゆったり	タツカ等
【旋律】	上がる	下がる	順次進行	跳躍進行	なめらか
	波	山	谷		はぎれよい

③自分が表したいイメージをもとに、どのような音楽をつくるかについて考え、ワークシートに歌詞と音を記入します。記入した音を『song maker』に入力し、リズムや旋律の特徴を生かして創意工夫し、1人が一つ、15秒程度の音楽をつくります。

ポイント2      ポイント3



## 研究会

④3人1グループになり『song maker』に入力した作品を聴き、感想を伝え合います。制作者は、創作した作品について、なぜそのリズムと旋律にしたのか根拠をもって説明していきま

す。創作した作品を歌えるようにし、完成させていきます。



⑤歌を完成させ、録音します。出来上がった作品は、地域の施設で流してもらいます。